

平成17年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 イカナゴ

学名 *Ammodytes personatus*

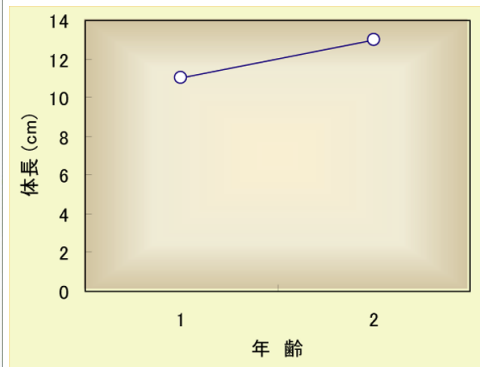
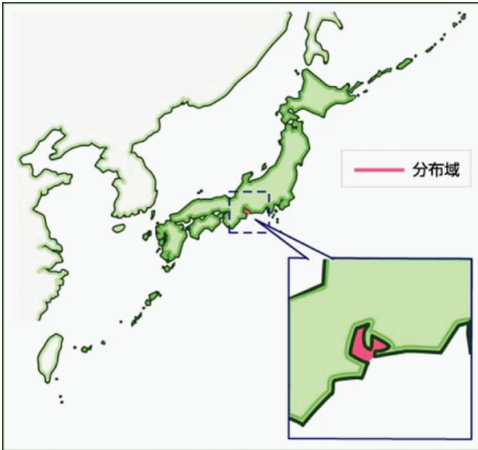
系群名 伊勢・三河湾系群

担当水研 中央水産研究所



生物学的特性

寿命: 2～3歳
成熟開始年齢: 0歳
産卵期・産卵場: 12～1月、伊勢湾口域～渥美外海の粗砂域
索餌期・索餌場: 不明
食性: 動物プランクトン(カイアシ類が主であるが、ヨコエビ類、ヤムシ類、アミ類も食物となっている)
捕食者: 稚仔魚期には多様な浮魚類やヤムシ類、未成魚期・成魚期にはヒラメ等多くの底魚

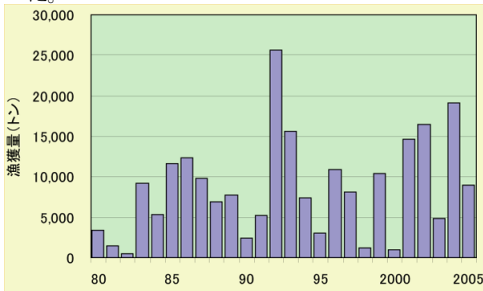


漁業の特徴

漁獲対象は、2～3月が稚仔魚、4～5月が未成魚、1～2月が夏眠後の産卵を終えた親魚である。稚仔魚と未成魚は船びき網で漁獲され、親魚はすくい網で漁獲されている。ただし、稚仔魚が漁獲量のほとんどを占める。

漁獲の動向

1974年に27,000トン台であった年間漁獲量はその後大きく減少し、1982年にはわずか515トンにまで落ち込んだ。1983年以降は再び増加したが、その後は915～25,659トンで大きな変動を繰り返している。2005年は8,952トンであった。

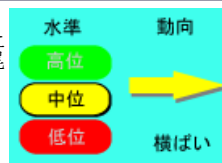
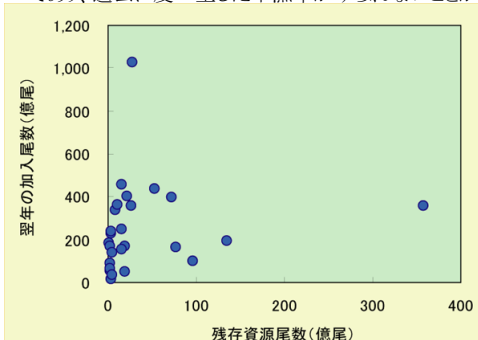


資源評価法

各県で算出された日別漁獲尾数を加算して伊勢三河湾の漁獲尾数を求めた。これらデータから算出した各操業日の漁獲尾数および出漁統計データを用いてTaylor's power lawによるDeluryの一般化モデルに当てはめ、漁獲加入資源尾数と残存資源尾数を推定した。推定残存資源尾数と翌年の加入資源尾数を用いて再生産関係を検討した。

資源状態

資源水準は、2005年の加入尾数が163億尾と推定され、過去20年で15番目の多さであった。しかし漁獲量は8,952トンで過去20年で10番目であったことから、中位と判断した。また動向については、近年5年では、漁獲量が5,000～20,000トン、加入尾数も150～450億尾であり、過去に度々生じた不漁年がみられないことから、横ばいと判断した。



管理方策

伊勢湾のイカナゴ資源管理では、加入乱獲抑制を主体として、成長乱獲抑制を部分的に導入している。成長管理においては、事前調査により把握されるその年の成長状況に応じて解禁日を前後に調整するなど、細かい管理を実践している。加入管理においては、産卵親魚量一定方策を用いており、産卵期の禁漁に加え、親魚量確保のための終漁期の設定を行っている。今後は、残すべき産卵親魚数の算定や、より大型の産卵親魚を残す方策の検討が望まれる。

資源評価のまとめ

- 年間漁獲量は大きな変動を繰り返しているが、近年は安定傾向である
- 近年5年では、漁獲量が5,000～20,000トン、加入尾数も150～450億尾であり、過去に度々生じた不漁年がみられない
- 産卵親魚量の増加に伴って、加入量が頭打ちになる傾向がある

管理方策のまとめ

- 事前調査により成長状況に応じて解禁日を調整する
- 産卵期の禁漁に加えて親魚量確保のために、終漁期を設定する
- 再生産関係をさらに吟味し、残すべき残存親魚尾数を算定する
- 大型の産卵親魚を残す方策を検討する

資源評価は毎年更新されます。